

日 時 令和6年6月19日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (16人)

1番	後藤隆夫	2番	八戸実
3番	成田浩基	4番	工藤和行
5番	工藤禎子	6番	大久保朝泰
7番	大溝雅昭	8番	黒石ナナ子
9番	三上廣大	10番	今大介
11番	工藤俊広	12番	北山一衛
13番	中田博文	14番	佐々木隆
15番	村上啓二	16番	村上隆昭

欠席議員 (なし)

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	総務部長	鳴海淳造
企画財政部長	五戸真也	健康福祉部長 兼福祉事務所長	佐々木順子
農林部長 農業委員会事務局長併任	佐藤久貴	商工観光部長	太田誠
建設部長	中田憲人	総務課長	駒井俊也
総務課参事 兼財産管理室長	藤本洋平	防災管理室長	山口祐宏
財政課長	福士牧人	農林課長 兼バイオ技術センター所長	三上英樹
観光課長	太田淳也	都市建築課長	小山内和徳
農業委員会会長	木立康行	選挙管理委員会委員長	山田明匡
監査委員	今田貴士	教育長	山内孝行
教育部長 兼市民文化会館長	樋口秀仁	教育委員会理事 兼指導課長	高木威
社会教育課長 兼市立図書館次長	村元裕	文化スポーツ課長	池田守臣
黒石病院事務局長	工藤春行	黒石病院事務局次長	宮本節造

会議に付した事件の題目及び議事日程

令和6年第2回黒石市議会定例会議事日程 第3号

令和6年6月19日(水) 午前10時 開 議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長	高 橋 純 一
次 長	高 樋 智 樹
次 長 補 佐	山 谷 成 人
主 事 補	秋 田 麻 尋

会議の顛末

午前10時00分 開 議

◎議長(工藤和行) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

◎議長(工藤和行) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

1番後藤隆夫議員及び16番村上隆昭議員を指名いたします。

◎議長(工藤和行) 議長交代のため、暫時休憩いたします。

午前10時01分 休 憩

(議長退席、副議長着席)

午前10時02分 開 議

◎副議長(三上廣大) 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第2 市政に対する一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次、質問を許します。

1番後藤隆夫議員の質問を許します。1番後藤隆夫議員。

登 壇

◎1番(後藤隆夫) おはようございます。自民・公明クラブの後藤隆夫です。

今年も早いもので半年が過ぎようとしています。本年は年明けから能登半島地震という大災害が発生し、改めて被災された方々への御冥福をお祈り申し上げるとともに、長年住み慣れた自宅をなくし、ふるさとを離れ、いまだ避難所、仮設住宅で生活をされている方々の心境は大変なものかと察します。一日も早い復興を願うものです。

近年、100年に一度、何十年に一度といった災害が各地で頻繁に起きているような気がしま

す。「災害は忘れた頃にやってくる」の定義は、もはやなきに等しいのでは。今や、「災害は忘れる前にやってくる」に変化しているように思います。

また、各地での豪雨災害も頻繁に起きています。本県でも下北の大雨、鱒ヶ沢の洪水、岩木川の氾濫、一昨年前の8月には、黒石市も大雨による道路の決壊、崖崩れ、農地への被害等がありました。我々人間は自然の力には勝つことができないのでは、災害は避けて通れないのだと痛感しています。

それでは、通告に従い質問させていただきます。

1、災害時の対応について。災害対策本部を立ち上げるとは思いますが、災害時の情報収集について、被害状況をどのような手段で確認しているのでしょうかお聞かせください。

また、市民への伝達方法はどのように行っているのか。

ウとして、避難者への対応について。水、食料、電気、ベッド、トイレ、毛布等の保有状況についてお聞かせください。

2つ目に、小・中学生の自転車用ヘルメットの着用についてですが、昨日の三上議員の質問と同趣旨でありますので割愛させていただきます。

以上で、壇上からの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎副議長（三上廣大） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 後藤隆夫議員にお答えいたします。私からは、災害時の対応についての、市民への伝達方法について答弁させていただきます。

市民への災害時における情報伝達といたしましては、黒石市防災情報システムで各地区の公民館に設置しております屋外拡声機や、広報車で巡回により住民へ周知することとなっております。

また、本市の防災アプリをスマートフォンに登録することで、屋外拡声機での放送を聞き逃した場合や市外及び県外に在住している方でも、市内に住む家族の緊急情報を文字表示で確認することができます。このことから、今後も防災アプリの登録を積極的に働きかけてまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、災害時の情報収集と避難者への対応についてお答えさせていただきます。

まず、災害時の情報収集です。災害が発生した際の被害状況の確認につきましては、各課室の巡回による情報収集、それから黒石市災害対策本部の防災関係機関であります黒石警察署及び黒石消防署のほか、各地区自主防災組織からの被害状況の報告などを受けて現地を確認してございます。

次に、避難者への対応でございます。現在、本市が保有している避難所用の備蓄品としましては、1本500ミリリットルの飲料水が6552本、非常用発電機が3台、ソーラーパネル式の蓄電池が20台、段ボールベッドが342個、電動簡易トイレが19台、トイレ用凝固剤が5880枚、トイレトーパーが456ロール、毛布が936枚などを備蓄してございます。

食料につきましては、備蓄はしてございませんが、災害時に物資供給の協定を結んでおります紅屋商事株式会社と株式会社ユニバースから食料の供給を受けて、各避難所へ配給することとなっております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（三上廣大） 再質問を許します。1番後藤隆夫議員。

◎1番（後藤隆夫） 自主防災組織とありますが、自主防災組織の訓練状況はどのようになっていますでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 現在、黒石市内には11団体の自主防災組織がございまして、令和5年度は9団体の自主防災組織が独自に防災訓練を行っております。

主な訓練としましては、地震などを想定して被害状況等を消防団の消防車両等で巡回する情報収集訓練、それから公民館に設置しております屋外拡声機を利用した情報伝達訓練、避難所の設営及び誘導訓練、婦人会などによります炊き出し訓練などを行っているところでございます。

◎副議長（三上廣大） 1番後藤隆夫議員。

◎1番（後藤隆夫） 訓練状況については全団体ではないものの行われているとのことですが、ぜひ全団体が行っていただきたいと思います。ある程度、市が主導を取り、訓練状況を確認・検証し、問題点を把握し、その問題点を次の訓練に生かす必要があるのではないかと思います。ぜひ検討していただきたいと思います。アの質問については終わります。

続いて、イの伝達方法はどのように行っているのかということで、防災システム等によりやっているとありましたが、ただ今の答弁で屋外拡声機での聞き逃しとありましたが、屋外拡声機から少し離れた地域では全く聞こえないというところもあります。それをカバーするための広報車だと思っておりますが、平時においては車両が通れるが、災害時は車両が通れない箇所が散見

されております。拡声機については全地域に聞こえるような設置場所、物、数を検討していただきたい。

市は市民があつてのものです。市民の安全・安心を守るのが最大の責務だと思っております。起きてしまつてからでは遅いのです。二重、三重、四重といった連絡方法を準備する必要があると思います。答弁をお願いします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 確かに、屋外拡声機は各地区の公民館に1か所ずつ設置しております。聞こえない部分もございます。市内全域に聞こえるわけではございません。ただ、全地域にやろうとすると相当な費用がかかることとなります。費用がかかるからやらないのかということもあろうかと思いますが、そのために、先ほど市長が答弁しました防災アプリを使つての市民への伝達方法がございます。スマホに登録していただきますと、何かしゃべっているな、何か聞こえるなつていうときに文字でも見られるわけですので、そういうのも十分に活用していただきたいなというふうに思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 1番後藤隆夫議員。

◎1番（後藤隆夫） 防災アプリとありましたが、防災アプリをどのようにして市民の人たちに普及しているのか、普及しようとしているのか、その辺についてはどうお考えですか。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 防災アプリをやり始めたのが令和4年度でございました。その際は毎戸にA4のチラシを配ったかと思ひます。また、各公民館、市内の公共施設内にもポスターを掲げておりますので、そのQRコードを読み取っていただければ登録することができます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 1番後藤隆夫議員。

◎1番（後藤隆夫） 防災アプリのチラシを配つたとありますけれども、スマートフォンを使えない方々が結構いると思ひます。特に、年配の方々は災害が起きたときに非常に弱者なわけですよね。その人たちにどのようにして伝達をするかというところで、私はこの拡声機というのが非常に重要になってくると感じております。アプリを使えない人たちにどのようにして伝達していくのかというところはどのようにお考えでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 確かに後藤議員がおっしゃるとおり、高齢の方は使えない方が多いというふうには認識しております。そのために、各地区の自主防災組織がそこで活動していただけるものと思ひます。ですので、自主防災組織の訓練につきましても——地区に精通し

ていらっしゃる方々ですので、お年寄りの方、独り暮らしの方がどこにいらっしゃるのかって
いうところも確認していただいて、有事の際には手助けしてあげるってような方法がよろ
しいかなというふうに思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 以上で、1番後藤隆夫議員の一般質問を終わります。

◎副議長（三上廣大） 次に、7番大溝雅昭議員の質問を許します。7番大溝雅昭議員。

登壇

◎7番（大溝雅昭） 皆さん、こんにちは。自民・公明クラブの大溝雅昭です。令和6年第2回
定例会におきまして一般質問をいたします。

まずは、6月8日、第28回県小学生駅伝競走大会で、東英ランニングクラブが男子、女子と
もに大会新記録で優勝しました。同クラブの男女同時優勝は10年ぶり2回目で、男子は3回目、
女子は2回目の栄冠でした。

また、6月8日、9日は中体連地区大会が行われました。中南地区は昨年から弘前地区も一
緒になり、黒石勢の県大会への道はなかなか厳しくなっている状況であります。そういった中
で、卓球団体で中郷中学校が優勝いたしました。うれしく思います。しかし、そういった記事
の中に、全国中学校体育大会の大幅規模縮小の記事も載っております。除外されてしまう競
技が多くあるようです。小・中学校の部活について5番目の質問で取り上げますが、先生の働
き方改革の影響もあり非常に難しい課題となっております。

それでは、通告に従い質問をいたします。

1番目は、公共施設の改築、取壊しについての質問です。

市民サービス施設のわのまちセンターが、10月15日にオープンする予定で準備が進められて
います。これにより、市庁舎は市内の5つの建物に分散されることとなります。全国でも非常
に珍しいと思います。建設の個々の計画はその都度説明されますが、改築や取壊しの全体の計
画の説明はされておられません。

アの今後の計画についてですが、まずは廃校などの取壊し、改築などについてどのような計
画になっているのか質問いたします。

イの学校の取壊し前のイベントについてですが、アの質問に関連しますが、取壊し、改築さ
れる廃校などについて、まずは各学校に卒業制作やタイムカプセルなど思い出のものが残って
いないのか質問いたします。

2番目は、津軽伝承工芸館・津軽こけし館についての質問です。

5月7日に会派の勉強会で、ロジスティクスクロッシングと津軽伝承工芸館を視察しました。

津軽伝承工芸館では、観光施設として飲食と物販ができないことが運営上厳しいということでした。昨日の三上廣大議員の質問と重なるところがあるので、同じ内容の質問は割愛させていただきます。

アの直営となってから今までと今後の取組についてですが、昨日の答弁では、イベントは定期的に開催しており、これからも開催する予定があるということでした。それでは、直営だから制限がありますが、逆に直営だからこそできることもあるかと思います。直営だからこそできる取組についてどのようなものがあるのか質問いたします。

イの今後の指定管理についてですが、昨日の答弁では、指定管理の公募は全国に広げて公募するとのことでありました。公正取引委員会の排除命令が出て、指定管理者の候補者選定が取り消された悪い印象の報道があります。そういった中で、指定管理の応募が果たしてあるのか市民が心配しております。指定管理公募を全国にし、その中でどのような反応があるのか質問いたします。

3番目は、あおもり10市大祭典についての質問です。前回の質問では、まだ業者が選定されておらず、詳しい内容はこれからだとのことでありました。

アの大祭典のスケジュールについてですが、まずは今決まっている今後のスケジュールについて質問をいたします。

イの大祭典の内容についてですが、まずはどのような展示やイベントを行うのか質問いたします。

4番目は、農業行政についての質問です。

アの新規就農者育成総合対策についてですが、まずは黒石市の農業人口の推計について、5年後、10年後はどうなるのか。そして、新規就農者育成総合対策の経営開始資金と経営発展支援事業の実施状況について質問いたします。

イの有機の郷くろいしの推進についてですが、まずは目標は何か、どのように進めていくのか、どういった効果が見込まれるのかを質問いたします。

5番目は、小・中学校の部活動についての質問です。

アの小学生のスポーツ活動と文化活動の状況についてですが、小学校の部活動が事実上廃止されました。しかし、子供たちのスポーツや文化活動に参加する機会が制限されてはいけません。まずは、小学生のスポーツ少年団、地域スポーツクラブなどへの加入状況、活動状況と、小学生の音楽や文化活動などの活動状況についてどのようになっているのか質問いたします。

イは中学校部活動の土・日曜日の地域スポーツクラブへの移行についてですが、まずはこの問題が出たとき、弘前市やむつ市では関係者の会議等を開き取り組んでいるという報道がありました。黒石市ではどのように取り組んでいるのか質問いたします。

ウのこれから中学校の部活動についてですが、中体連の参加資格が変わってきています。令和5年度より中体連主催の大会の参加資格が広げられました。現在、どのような状況になっているのかを質問いたします。

以上で、壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

降 壇

◎副議長（三上廣大） 理事者の答弁を求めます。市長。

登 壇

◎市長（高樋憲） 大溝雅昭議員にお答えいたします。私からは、あおもり10市大祭典についての、イの内容について答弁させていただきます。

イベントの内容については、黒石駅前から御幸公園までの富田通り周辺と、中町こみせ通り周辺の2つの会場に分けて説明させていただきます。

富田通り周辺では、駅前多目的広場から御幸公園に向け、10市の山車や踊りなどのパレードを行います。駅前多目的広場及び旧生協跡地では、パレードのスタートセレモニー及びグルメ等の出店を行います。

御幸公園では山車小屋を設置し、パレード以外の時間帯で10市の山車の見学やはやしの演奏を楽しんだりできるほか、露店などの出店も予定いたしております。

中町こみせ通り周辺では、産業会館横の駐車場、横町及び前町に10市のグルメ及び物産の出店を予定いたしております。中町こみせ通りでは、松の湯交流館から鳴海醸造店までの路上をステージに見立て、10市の踊りなどを披露していただく予定になっております。

その他につきましては、担当部長等より答弁をさせます。

降 壇

◎副議長（三上廣大） 教育長。

◎教育長（山内孝行） 私からは、中学校部活動の土・日曜日の地域スポーツクラブへの移行についてお答えいたします。

教育委員会といたしましては、黒石市立学校部活動の地域移行に関する検討委員会を5月から開催しております。検討委員会では、平日を含めた学校部活動の地域移行や土・日曜日の地域スポーツクラブへの移行など、実施に向けた課題や運営方法等について協議していただいているところです。

また、10月末には検討した内容をまとめた黒石市立学校部活動の地域移行推進計画の策定を予定しているところです。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、公共施設の改築、取壊しについてお答えいたします。

まず、アの今後の計画でございます。

現在、使用されていない廃校施設は、旧黒石小学校、旧中郷小学校、旧浅瀬石小学校、県から譲与された旧黒石商業高等学校の第一体育館及び柔剣道場となっております。

今後の利活用の計画につきましては、旧黒石小学校は一部解体して（仮称）黒石市立子ども美術館として改修し使用するほか、旧中郷小学校は解体して跡地を中央防災公園として、それから旧浅瀬石小学校は改修して公民館として、旧黒石商業高等学校の第一体育館及び柔剣道場は、全天候型トレーニングセンター及び武道場として使用することとしております。

次に、学校の取壊し前のイベントについてお答えします。

各廃校施設については、一部卒業制作などの記念品が残っている状況であり、廃校施設を公民館に転用した施設については、一部そのまま記念として展示しております。なお、タイムカプセルの有無につきましては、教育委員会にも確認をしましたが把握できませんでした。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 私からは、農業行政についての、新規就農者育成総合対策と有機の郷くろいしの推進につきましてお答えさせていただきます。

まず、新規就農者育成総合対策についてお答えいたします。

市における10年後の農業人口の推計でございますが、令和5年7月現在の農地基本台帳に登録されております2363経営体を基に、ここから10年後、80歳以上の農業者が離農すると想定した場合、454経営体が減少し、19.2%の減少率になるものと推計されます。

次に、令和4年度から新たにスタートいたしました新規就農者育成総合対策についてでございますが、このうち個人で年額150万円、夫婦型で年額225万円が最長で3年間交付されます経営開始資金事業につきましては、令和4年度及び5年度からの継続分といたしまして、個人6名分の2325万円、夫婦1組の675万円、合わせて8名の方に合計3000万円が交付されております。また、今年度は新規対象者の個人6名分の900万円が追加となり、合計して14名の方に3900万円が交付される見込みとなっております。

次に、新規就農時に導入する機械や施設等の費用の4分の3を支援いたします経営発展支援事業についてでございますが、令和4年度はスピードスプレーヤーや乗用草刈機など機械4件に合わせて807万円、令和5年度は乗用草刈機などの機械2件に合わせて132万円となっており、2か年で6件に対して合計939万円が交付されてございます。また、今年度はミニトマト選果機の1件、54万円の申請があり、合計いたしまして7件、993万円が交付される見込みとなっております。

次に、有機の郷くろいしの推進についてお答えさせていただきます。

市は、令和元年、国が立ち上げました有機農業と地域振興を考える自治体ネットワークへ参加しており、その参画をきっかけといたしまして、有機農業が自然循環機能を増進させ、環境への負荷を大きく低減させるとともに、その農産物の付加価値を高め有利販売につながることで農業所得の向上と地域の活性化を図ることができる手法であるとして、有機農業による産地づくりに取り組むことといたしました。

また、令和3年、国は持続可能な社会の実現に向けて、食料の生産から消費まで全ての過程における環境負荷を低減させ、循環型の食料システムを構築するための包括的な戦略でありますみどりの食料システム戦略を策定し、2050年度までに国内の耕作面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万ヘクタールに拡大するという目標を掲げました。

このようなことから、市の強みであります豊かな自然環境を生かした安心・安全な有機農業の取組を加速させ、食と農の活性化による魅力ある有機の郷くろいしの実現に向け、令和5年3月20日には、青森県では初となりますオーガニックビレッジ宣言を行ってございます。

また、有機農業の推進に当たっては、スマート農業技術による省力化・低コスト化を可能にする生産技術の確立が必要となることから、市と農機具メーカーであります井関農機株式会社、株式会社キセキ東北による持続可能な発展のための有機農産物の産地づくりに関する協定を締結し、昨年からはスマート農業機械による栽培技術の実証試験を行っております。

次に、現在の目標についてでございますが、市では国の補助金等を活用し、有機農業実践者の増加と実施面積の拡大に向けて取り組んでいるところです。令和4年度から令和9年度までの5か年で、有機農業の取組面積を4.6ヘクタールから40ヘクタール、有機農業実践者数を1名から20名に増加、市内小学校の給食へ有機米の提供を年2回から通年で提供するといった目標を掲げております。

私からは以上です。

◎副議長（三上廣大） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 私からは、初めに津軽伝承工芸館・津軽こけし館についてお答えいたします。まず、直営となってから今までと今後の取組についての、直営だからこそできることということでお答えいたします。

直営のメリットとしては、施設の収益より施設のにぎわいを目的としたイベントを実施できる点が挙げられます。先日開催したくろいちでは、市主催であるため施設へ訪れてもらうことを目的として幅広く声かけをしたところ、急な開催にも関わらず多くの出店者を確保することができました。津軽伝承工芸館の各工房や津軽こけし館への誘客につなげるイベントになったと考えております。

次に、今後の指定管理者についての、どのような反応があるのかということについてお答えいたします。

今回の独占禁止法違反疑惑に関する一連の報道の中で、津軽伝承工芸館と津軽こけし館が取り上げられたことにより、それぞれの認知度が上がったと見られ、県内外から指定管理者の再公募に係る複数の問合せが来ております。全国から多くの事業者の方に応募していただくことを期待しているところであります。多くの事業者の中から選定させていただくことにより、より質の高いサービスの提供や施設運営につながるものと考えております。

続きまして、あおもり10市大祭典についてお答えいたします。

スケジュールについてです。あおもり10市大祭典in黒石は、パレード等イベントの核となる部分を青森県市長会が主催いたします。この核となる部分に黒石市独自で併催イベントを実施し、事業効果をより高められるよう準備を進めております。

今後のスケジュールですが、青森県市長会の委託事業者決定が6月下旬から7月上旬になると伺っております。7月にホームページ等でのイベント概要周知、出店事業者の公募を開始するとともに、関係機関と交通規制等の協議を行います。8月は出店事業者の決定及び案内看板等の設置を行います。9月は御幸公園に山車小屋の設置を行うなど、順次、会場設営に取り組むこととなります。

私からは以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（高木威） 私からは、小・中学校の部活動についての、アの小学生のスポーツ活動と文化活動の状況について、ウのこれからの中学校の部活動についてお答えいたします。

まず、小学生のスポーツ活動と文化活動の状況についてです。

小学生の部活動については、現在、黒石東小学校の吹奏楽部のみが部活動として活動しております。所属部員は4年生5名、5年生2名、6年生5名の計12名で、吹奏楽コンクールや学校行事、地区のイベントなどに向けて演奏活動を行っております。

なお、部活動以外の活動については、スポーツ活動では本市や他自治体の様々な競技のスポーツ少年団に参加しているようで、詳細についての実態は把握しておりません。また、文化活動では教育委員会が担当している黒石市少年少女発明クラブに20名、銀河宇宙探険隊に15名が参加するなど、様々な文化活動を行っている児童がおります。

続いて、ウのこれからの中学校の部活動についてです。

参加状況についてですが、6月8日から開催された弘前地区・南地方中学校体育大会夏季大会において、中学校単独の部活動、黒石中学校及び中郷中学校による合同部活動、クラブチー

ムによる参加の3種類がありました。

中学校単独の部活動で参加した競技は、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、卓球、柔道、剣道、陸上、水泳の10競技でした。

また、黒石中学校及び中郷中学校による合同部活動で参加した競技は、野球、サッカーの2競技でした。

なお、クラブチームに所属して参加した競技は、陸上、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、サッカー、相撲の6競技でした。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（三上廣大） 再質問を許します。7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。ちょっと今回項目が多いので、簡潔な答弁となるべく早く進めていきたいと思えます。まずは、1番の公共施設の改築、取壊しについてです。

最初に、アの今後の計画ということで学校等について質問したんですけれども、それ以外にも公共施設あるかと思えます。そのほかの公共施設等の計画についてお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） そのほかの公共施設ということですが、一番は新庁舎の建設についてでございます。

現在の本庁舎の敷地にあります建物については全て解体する計画となっております。スケジュールといたしましては、令和7年1月頃から敷地南側の第二庁舎、情報処理室などの取壊しを行い、そのエリアに新庁舎を建設する予定となっております。

新庁舎の建設後の令和9年度以降、敷地中央及び北側にある現本庁舎、それから車庫棟などの取壊しを行う予定となっております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 造る計画はあるんですけれども、壊す計画っていうのは、私たちも市民も聞いてない中で莫大な予算もかかるわけです。また、黒石市をざっと見回すと、公共的な建物としては、婦人会館や東公民館なども大分老朽化しており、この対策も必要になってくると思えます。これからいろいろ大変ですし、お金もかかってくるかと思えます。

そういった改築、取壊しをする公共施設にアスベスト等の問題はないのかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） アスベストにつきましては、解体工事の設計時、それから着工時に事前調査を行うこととなっております。仮に、アスベストの含有が確認された場合は、関係法令に基づいて、適切に処理してまいりたいと思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） アスベストがあると解体に莫大な費用がかかるわけですから——一応聞くところによると、アスベストも飛散性と飛散性でないアスベストがあり、それによって費用が違ふということも聞いておりますので、あまりお金がかからないことを願うわけでありませぬ。

それでは、イの取壊し前のイベントについてですけれども、先ほど、残っているところがあるということと、タイムカプセルは把握していないということでした。そういったところで、改築や取壊し前にそういうことを市民に告知して、最後に思い出の場所を見たり卒業制作を持って行ってもらったり、そういったイベント等をしてはどうかと思ひますが考えをお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 旧小学校につきましては、閉校時に教育委員会におきまして閉校式典、それから内覧会を既に行っております。地域の方々に参加していただいておりますので、その際、記念として残しておくものの選別などについても行っていただいております。

取り壊す予定の廃校施設については、今老朽化が進んでいるということと、掃除もされておらず、とてもお客さんを入れられるような状況にはございませぬので、再びイベントなどを行う予定はありませぬ。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 各学校の閉校式のときにそれなりのことを行ったということですがけれども——閉校式は児童がメインですし、あまり地域の人に関わったようなイメージがちょっとないのもあります。ただ、危険だということもありますが、現状そういうものが残っているということと——それこそタイムカプセルですね。ちょうどコロナとぶつかって、掘り起こす予定だったタイムカプセル——黒石小学校のPTAの話なんですけれども、結局そのままになってしまったという話を聞いておりますので、せつかく埋めたものなので掘れるように情報提供と便宜を図っていただければと思ひます。

続きまして、2番の津軽伝承工芸館・津軽こけし館についてです。

まず、アの運営状況ですがけれども、昨日もいろいろやっているということを知りました。春まつり、そしてくろいちですね——私、5月26日に終わる直前に行ったらですね、私が予想していたよりも出店がいっぱいあって、キッチンカーも何台も出ていたらしいですけれども、私

が行ったときにはもう完売して、撤収して1台も現場にいませんでした。それだけお客さんが来てくれたなということで——やっぱり観光施設は悪いイメージがつくと、これからどうなるか分かりませんが、地域もテナントでいる方にも悪影響を及ぼしますので、新しい形が決まるまで頑張っていたらというふうに思います。

そして、イの指定管理についてですけれども、それこそ全国からの問合せがあるということですので、思いのほか安心したというか——本当にこれからどうなるんだろうかなという心配を皆さんしていたところですのでけれども、黒石にとって少しでもよい方向に結果としてなることを期待いたしますし、そうなれば、市で一番人が集まる秋の中野もみじ山の観光シーズンにできれば関与できるようになれば本当にいいなと思います。期待しておりますのでよろしく願いいたします。これは答弁は要りません。

次に、3番のあおもり10市大祭典についてです。

スケジュールについて今いろいろ聞きましたけれども、結果的にPRして来てもらわないといけないですし、市民も理解しないといけないと思いますので、いつ内容が決まり、県内外にPRできるのかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 先ほど申し上げました黒石市独自で行う併催イベントについては、委託事業者も決定しており準備を進めているところであります。

今後、青森県市長会が準備を進めている委託事業者が決定してから全体の概要等が公表されることとなりますので、7月から周知が開始されるものと考えております。タイムスケジュールや出店者の情報など決まり次第、随時発信していきたいと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 7月から周知できるということで、大いにPRしてもらって黒石を発信していただければと思います。

それでは、イの内容についてですけれども、市長から細かい説明ありがとうございました。そういった中で黒石らしさの話も出てきましたけれども、黒石をどのようにアピールするのかもう一度お尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 10市大祭典には県内外から多くの方がお越しになるものと想定しており、黒石市の魅力を感じていただく絶好の機会と捉えております。黒石市の中心市街地は徒歩圏内に多くの魅力が詰まっており、江戸時代の風情と町並みを残した中町こみせ通りや国の名勝金平成園などを回遊していただき、ふだんと違った雰囲気を楽しんでいただければと思います。

ます。

また、黒石つゆやきそばや地酒などのグルメや、黒石市で活動している音楽家による演奏も楽しんでいただき、何度も黒石市を訪れていただくきっかけになればと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 黒石を回遊してもらおうという話もありましたけれども、例えばこみせを見るんじゃなく、こみせの中を見せたり、金平成園もあるのでお得に見せたり——あとは、市が認定した小さなまちかど博物館というものがありますので、それを回ったり、そういったイベントもしてはどうかと思うんですけれども考えをお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 今御紹介のあった小さなまちかど博物館については、10市大祭典の開催時期に合わせてスタンプラリーを行いたいと計画をしているところです。ガイドブックを片手に、見て触れて感じていただき、一人でも多くの黒石ファンの獲得につながればと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 2日間だけではなくて、スタンプラリーの期間にこの期間を入れるということですね。その前に来た人、その後に来た人もですね、そういうことに参加できるということでもいい考えだと思いますのでよろしくお願いたします。

この機会にぜひとも黒石のよさを——黒石はよいところだと私も思っていますし、そう思っていない市民も中にはいるみたいですが、黒石のよさを大いにPRできればなと思っています。

そういった中で、市民参加についてですけれども、いかに多くの市民がこの大祭典に関わりを持つか、参加するかということで、市民に黒石のよさが広がっていくかと思うんですけれども、その辺の考えについてお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 商工観光部長。

◎商工観光部長（太田誠） 市民参加については、10市のお祭りパレードに本市からは黒石よさが出演しますので、市民の皆様には浴衣でお越しいただき、流し踊りの列に加わって踊りを楽しみ、盛り上げていただきたいと考えております。

駅前多目的広場から10市の山車や踊りなどが順次スタートしますので、パレードの順番が決まり黒石市の出発時刻等が決まりましたら、周知の上、参加の募集をしたいと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） パレードの黒石よされに市民が誰でも参加できるようにするという話だと思います。非常にいいことだと思います。黒石市民全員が参加すれば大変なことになるかもしれませんが、その辺の周知もよされに合わせて周知してもらえれば参加者も理解できますし増えると思いますので、ぜひともよされに合わせてそういう参加の募集もしてもらえればと思います。よろしく願いいたします。また、そのほかにも関わる機会もいろいろとあると思いますので、多くの市民を巻き込んで10市大祭典をやっていただければというふうに思います。

あと、4番の農業行政についての、新規就農者育成総合対策についてです。

いろいろやっていて成果は出ているかと思えますけれども、やってきた成果について、現在も続いているのか。また、辞めれば返還等の規定もたしかあったと思えますけれども、その辺についてお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 市では新規就農者に係る補助金事業につきましては、旧対策を含めて平成24年度から実施しております。平成24年度から令和5年度までで95名の方が補助金の交付を受けており、そのうち病気等のやむを得ない事情で7名の方がリタイアしてございますが、補助金の返還には至っておりません。そのほかの88名の方につきましては、現在も農業経営に携わっているところでございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） この制度を利用して、88名の方が現在も農業をやっているということで非常にいいことだと思います。そもそも黒石に住んでいる人もいるでしょうし、向こうから来た人もいるでしょうし、いろいろなパターンはあるとは思いますが、ぜひとも続けていってもらえればなというふうに思います。

そういった中でですね、新規農業者が農業を効率的に行うためには分散している農地の集約が必要だと思います。農地中間管理機構の農地の集積の状況等はどのように進んでいるのかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 農地中間管理機構の集積状況について、令和3年度から令和5年度までの直近3年間の地目ごとの集積状況をお答えいたします。

令和3年度ですが、田が17ヘクタール、畑が0.7ヘクタール、樹園地が0.2ヘクタール、合計17.9ヘクタールが集積されております。次に、令和4年度につきましては田のみが該当しており、合計17.6ヘクタールが集積されております。令和5年度につきましては、田が28.4ヘクタール、樹園地が1.7ヘクタール、合計30.1ヘクタールが集積され、直近の3年間では65.6ヘク

ターの農地の集積がされている状況でございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 農地の集約というのは、効率的な農業、特に機械化を入れるためには必要だと思いますし、今年4月から相続登記の義務化が施行されました。猶予期間はあるんですけども、これも集積のきっかけに、もしかしたらなっていくのかなというふうに思いますので、情報を取りながら進めていただければなと思います。

それでは、有機の郷くろいしの推進についてお尋ねします。

オーガニックビレッジ宣言して、井関農機との協定も進んでいるということで一生懸命取り組んでいるんですが、まずは学校給食への——先ほども聞きましたけれども、有機農産物の取り込み——米の話はありますけれども、その他も含めてどのようにもう一度やっていくのか、子供たちのことも考えると重要なことだと思いますのでお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 学校給食への農産物の提供につきましては、先ほどもお答えいたしましたけれども、市内小学校の学校給食へは令和4年度から有機栽培ムツシキの導入に取り組んでおり、令和4年度は年に2回、令和5年度は6月から翌年の3月まで10か月間で月に1回のペースで提供しております。

今年度につきましては、新米時期の11月頃から2か月間、毎日有機米を提供する予定としております。また、今年是有機米に加えまして、有機栽培のミニトマトを10回提供する予定としており、今後も引き続き提供できる農産物の品目の増加に努めてまいりたいと考えているところです。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 最初は年2回と、ちょっと少ないのかなと思っていましたけれども、これも段階的に——実際、栽培面積等の問題もありますが、100%を目指して進めていくということです。これは農家のためでもありますし、黒石の子供たちのためでもありますので、ぜひとも進めていただきたいと思います。

その中で、米はそれなりの成果は期待できるんですけども、それ以外の農産物についても——今のところミニトマトということで難しい状況があると思うんですけども、米以外の可能性について聞いてもよろしいですか。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 米とミニトマトというお答えしたんですが、

取組面積にもございますけれども、若干ではございますがアスパラガス、ニンニク、大豆等に取り組んでいる状況でございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） ありがとうございます。ぜひとも頑張って進めていてもらいたいし、それが頑張る農家さんの励みにもなると思いますので進めていてもらいたいと思います。

今までは学校給食について聞きましたけれども、これからの有機の郷づくりの取組について、学校給食だけではなくてですね、どのように進めていくのかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 有機の取組を進めていくために必要なことでございますが、まず、国内において有機農業が拡大しない理由といたしましては、1つ目は、除草とかの問題もありまして、コストと労力の問題があります。2つ目は、化学肥料を使いませんので収量の低下が問題です。3つ目は、有機農産物の市場の需要と価格の問題です。4つ目として、有機農業に取り組む方の技術と知識の不足が問題となっております。これらの要因が重なり国内での有機農業の広がりを妨げております。

しかし、最近健康志向の高まりや環境意識の向上により、有機農業に取り組む農業者が増えてきており、当市においても令和4年度に有機農業実践者が1名でした。しかし、今年度は新たに6名の農業者が増える予定であり、有機農業の普及については少しずつではありますが、着実に進んでいるところでございます。

今後必要なことといたしましては、有機農業の価値や効果を伝える食育や地産地消の推進はもちろんです。有機栽培の取組の課題となっております省力化や低コスト化に向けたスマート農機の開発による生産技術の早期確立、また、有機農産物を効果的に売り込むためのマーケティングが重要であると考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） いろいろな課題があるということで詳しく説明していただいてありがとうございました。有機農業はこれからの農業に、特に日本の農業には必要なことだと理解できずし、差別化、所得向上には必要なことだと思います。ただ、農家全員が取り組める状況ではないということも理解しております。わざわざそこまでする必要がないと考えている農家も多数いるという現状もあります。

ただ、先ほども答弁ありましたけれども、その取り組んでいる人が1名から6名に増えたということで、先進的な農業に取り組んでいる若者たちが黒石市に出てきておりますので、ぜひ

ともその人たちの活躍を期待しながら、市でも、私も応援していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、5の小・中学校の部活動についてに移ります。

小学校のほうの文化活動とスポーツ活動の状況についてですが、市の教育委員会では部活動1つと文化活動2つは把握しているけれども、そのほかは把握していないということですが、やはり把握する必要があるのではないかというふうに私は考えます。子供たちがいろいろなスポーツに関わったり、文化活動に関わったりすることは重要ですので、情報を与えて選択肢を与えてやる。そういう役目をやっぱり誰かがしないといけないと思いますので、把握調査についてのお考えをお聞きしたいと思います。

◎副議長（三上廣大） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（高木威） 小学校のスポーツ少年団は、種目やチームが多岐にわたっていて、市町村をまたいで所属するというふうなことを先ほども答弁いたしました。また、活動もアスリートとしてのチーム、運動を楽しむチームと、その活動についても様々なものがございまして。児童によっては、習い事としてスポーツ少年団へ加入というふうなものもあり、全てを教育委員会で把握するのは非常に困難であると考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 難しいという話です。ただ、例えばですが、旧黒石小学校鼓笛隊がありましたけれども、合併によってなくなりました。旧中郷小学校も音楽関係の部活とかクラブがあったんですけども、それも現在ないというふうに聞いております。合併によってなくなったもの、活動が制限されているものもあります。

例えば、子供たちにアンケートを取って、黒石市の小学生がどのぐらいスポーツに参加しているとか、していないとか、音楽や文化活動に参加しているというアンケートは取れると思います。その状況を見て、これは危機的な状況か、それともきちんと移行しているのか、そういった状況も出てくると思いますので、そういった調査やサポートが必要だと思っておりますが、しつこいようですがその辺の取組が必要ではないかと思うんですけども答弁をお願いします。

◎副議長（三上廣大） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（高木威） 非常に貴重な御意見ありがとうございます。

青森県教育委員会からはですね、毎年、学校部活動の調査依頼というふうなものはございまして。それによって、黒石市内の小・中学校の部活動というふうなものは把握しております。ただし、スポーツ少年団につきましては、先ほども申し上げたとおり、非常に多岐にわたっているというふうなものです。市町村をまたいでというふうなことで、かなりの数というふうなも

のになっております。現在、調査対象外というふうなことになっており、今後も難しいと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） スポーツ少年団そのものの調査ではなく、子供たちにどのくらい参加しているか聴くぐらいはできるかと思うので、できれば前向きにお願いしたいと思います。子供たちの現状をですね、どういうふうにスポーツや文化に関わっているのか、この過渡期中で把握することが非常に必要だと思いますのでよろしくお願ひいたします。

イの中学校部活動の土・日曜日の地域スポーツクラブへの移行について、今後、検討委員会で検討すると。あと、平日も含めて検討委員会で検討し、10月に計画を出すということでした。それこそ指導者の間で話になっているのが、部活のままで土・日曜日は忙しい先生に代わる指導者だけが欲しいのか、それとも土・日だけ地域スポーツクラブに預けるのか、それによって責任の所在も違いますし、保険の掛け方も違いますし、親の対応も違ってきますので、その辺どうなのかなというのが指導者の間で話になってきています。今、お答えは委員会を待ってからということですが、現状ではそういう話になっていますので、その辺の方針をきっちり決めていただければなというふうに思います。

そういった中で、ウのこれからの部活動——全体的に言いますけれども、中体連の中身が変わったと。昨年から大幅に中身が変わって、学校単位で出るところ、合同チーム、地域スポーツクラブの3つの形態で中体連に参加しております。それが、競技ごとにばらばらなんですよね。スポーツクラブが発達している競技とそうでない競技、個人競技、団体競技——実は競技ごとにもその対応がばらばらになっているのが現状です。

私的には、先ほど答弁にありました黒石中学校と中郷中学校の——野球部が合同チームでないと参加できないと。はっきり言って黒石代表なのかなということというのと、そうでもない。ほかのクラブに行っている子供がいるという現状があるし、サッカーももう単独ではできないと。野球、サッカーと言えば人気スポーツであると感じていたんですが、もうそれすら単独でできない状況になっていると。そういった状況になっているということに私も驚いておりますけれども、皆さんも理解していく必要があると思います。

その辺で問題なのが、部活動がこれからなくなってしまうのか、それとも混在していくのか。混在した場合、部活動というのはあくまで教育の場であるというのと、地域スポーツクラブになると勝利至上主義、勝つために子供を集めると。ある競技で、あるスポーツクラブが団体で優勝しました。個人戦を見たら、そのスポーツクラブの人がベスト4に3人入っているんです。学校を超えるどころか、地域も超えて集めているスポーツクラブだったので——そこは県

でいつも優勝を狙って人を集めてきている。勝利至上主義のクラブも実際あって、一緒に戦っているのが現状であります。

そういったことで、過渡期で子供たちの混乱もありますけれども、やる気をなくしたり、選択肢を狭めたりすることも非常によくないと思いますので、難しい問題とありますけれども、教育委員会としてのこれからの取組に考えがあればお伺いしたいと思います。

◎副議長（三上廣大） 教育委員会理事兼指導課長。

◎教育委員会理事兼指導課長（高木威） これからの中学校の部活動の在り方というふうなことについてお答えいたします。

教育委員会といたしましては、令和6年3月、青森県教育委員会作成の学校部活動及び新たな地域クラブ活動の指針を受けて、部活動への任意参加や生徒数に応じた適正な部活動数の設置、複数顧問の配置や合同部活動の実施、外部指導者の活用、適切な休養日の設定などについて指導・助言を行っているところです。

また、黒石市立学校部活動の地域移行に関する検討委員会においても、検討委員の方々に今後の部活動の在り方について協議していただき、生徒や教職員、地域にとって持続可能な部活動を運営できるよう各中学校への指導・助言に努めてまいります。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 7番大溝雅昭議員。

◎7番（大溝雅昭） 今話を聞きますと、軸は部活動——教育委員会ですからですけども。あくまで部活動を軸に検討していくような感じで私的には捉えることができました。

そういった中で、先生の働き方改革も大事ですが、子供たちのスポーツや文化に対する興味、可能性、そういったものがとても大事だと思いますので、その辺について情報収集やそういったのを生かす取組について、教育委員会でも積極的に今後も取り組んでいくことをお願いして、一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎副議長（三上廣大） 以上で、7番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

◎副議長（三上廣大） 次に、14番佐々木隆議員の質問を許します。14番佐々木隆議員。

登壇

◎14番（佐々木隆） 黒石市民倶楽部の佐々木隆であります。

今年も様々なイベントが開催されてきておりますが、各イベントが天候に恵まれ、事故もなく終了すること、そして毎年各地で異常気象による災害が発生しておりますが、災害もなく実り多い年になることを願い一般質問に入ります。

初めに、農業振興についてであります。アの交信攪乱剤コンフューザーRの設置状況につ

いてお尋ねいたします。

昨年、国産りんごの輸出量が4万1083トンと、初めて4万トンを超えたと報道がありました。その輸出量の9割以上が青森県産とされ、そのうち台湾が最も多く2万8561トン、次に香港の1万773トンと、アジア地区を占めております。県は、適期収穫による品質の高さや積極的な販促活動が好調の要因と分析しております。

さて、昨年の夏季高温の影響により、今年はモモシクイガの発生が多くなると予測されております。主要な輸出先である台湾では、モモシクイガが発見されると、県全体の輸出の停止につながるおそれがあり、また国内の需給にも大きく影響することが懸念されるということから、病害虫の薬剤抵抗性発達や選択可能な農薬が減少していることから、県は令和6年のりんご病害虫防除暦に交信攪乱剤を採用し、交信攪乱剤を利用して地域ぐるみの防除に取り組む場合、生産者が購入する交信攪乱剤の費用の2分の1以内を支援するとあります。

そこで、お尋ねしますが、本市での交信攪乱剤コンフューザーRの設置状況をお知らせください。

次に、イとして、農道整備についてであります。近年スマート農業の普及につれ機械化が進み作業機械が大型化しており、水田地の農道が壊れ、道幅が狭く車の擦れ違いができない場所もあると聞かれますが、市では把握しているのかお尋ねします。

大きな2番目として、公園の遊具について。ア、維持、管理、更新についてお尋ねいたします。

今年の春先に運動公園に行った際、全ての遊具で子供たちが楽しく遊んでおりました。5月末に行きましたら、大きいほうの滑り台と上の部分が立入禁止となっております。また、横町かぐじ広場や虹の湖公園等の遊具は撤去されたままとなっており、子供たちの遊び場が少なくなっていると思われませんが、市ではそれらの遊具の維持、管理、更新をどのようにしているのかお尋ねいたします。

最後に、金平成園の入園料金についてお尋ねいたします。

先日、6月2日・9日、そして23日にも行われますが、同園で屋外の茶会である野点会が開催され、前売り券も完売したと聞いております。市民の癒やしの場所でもあり、市の文化財として、また、観光名所としても活用されております。

そこで、令和4年第4回定例会において、同僚議員が高齢者や身体障害者の入園料の減免について質問しております。近隣市町村の状況を調査・検討すると答弁しておりますが、その後の結果をお知らせください。

以上で、壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございます。

(拍手)

降壇

◎副議長（三上廣大） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 佐々木隆議員にお答えいたします。私からは、公園の遊具についての、維持、管理、更新について答弁させていただきます。

公園遊具の維持管理につきましては、毎年4月初めに実施している公園施設製品安全管理士による保守点検業務のほか、市職員による各公園の定期的な巡回により、遊具の破損等による危険箇所の有無を点検、確認いたしております。

これらの結果を基に、破損や異常のある遊具は使用中止とし、破損の状態に応じて修繕が可能なものは実施いたしております。

保守点検の結果については、各遊具の状態をAからDの4段階で評価され、使用の可否判断まで行われたものが報告されております。各段階の評価基準ですが、Aが良好な状態で修繕不要なもの、Bは軽微な異常が認められるが使用可能なもの、Cは明らかな異常があり使用不可とした上で修繕を要するもの、Dについては大規模改修もしくは撤去、更新を要するもので、点検後、評価Cの遊具を中心にリストアップして優先順位を検討の上、修繕を実施いたしております。また、評価Dの遊具につきましては、設置公園の利用頻度、遊具の人気度などから総合的に判断し、修繕、更新、撤去を決定いたしております。

今後も、子供たちの遊び場、子育て世代の憩いの場の確保のため、計画的な遊具の修繕、更新整備について、黒石市公園整備長寿命化計画への組入れも視野に入れ進めてまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降壇

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 私からは、農業振興についての、交信攪乱剤コンフューザーRの設置状況と農道整備についてお答えさせていただきます。

まず、当市の交信攪乱剤コンフューザーRの設置状況についてお答えいたします。令和6年5月31日時点での当市の交信攪乱剤コンフューザーRの購入状況から算出いたしますと、市内のりんご栽培面積約1200ヘクタールに対し370ヘクタール分となっており、約3割程度の設置状況となっております。

次に、農道整備についてお答えさせていただきます。農道の現状としては、建設当時に比べ広域・基幹農道は耕作車両以外にも一般車両の交通量が増加し、圃場内の農道につきましては、農業機械の高機能化、大型化が進むにつれて、従来の耕作のみに対応した道路幅員では現在の実情には適応し切れていない状況であります。

そういった圃場内の農道を整備することは、圃場への移動や資材の搬入、作物の搬出など、作業の効率を高めることが期待できます。しかし、農業農村整備事業では路側に蓋つきの側溝を設置することで幅員を広げるといった路肩改良工事を主とした事業はございませんが、より総合的に農作業の効率化を発揮させるよう農道整備については関係機関との協議を進める必要があることから、当市といたしましても現場の状況把握に努めてまいりたいと思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 私からは、金平成園の入園料における高齢者及び身体障害者の割引に関するその後の動向についてお答えいたします。

高齢者及び身体障害者に対する入園料の割引について近隣市町村の状況を調査しており、金平成園と同様、市が直接運営を行っている庭園はありませんでしたが、弘前市の瑞楽園と藤田記念庭園は指定管理者による運営が行われており、瑞楽園では入園料を無料とし、藤田記念庭園では65歳以上の高齢者や障害手帳の交付を受けた方などの入園料を無料としております。

以上のことを参考に、金平成園が多くの方に親しまれ、町なかの活性化にも資する庭園として保存・活用するために、市内に住所がある方や黒石市立図書館の図書を借りた方に対する入園料の無料化などの検討を進めております。

また、誰もが利用しやすい庭園とするため、障害のある方を対象とした割引制度の導入を検討するほか、車椅子利用者にも配慮した環境整備にも努めてまいります。

私からは以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（三上廣大） 再質問を許します。14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） 答弁ありがとうございました。順次、農業振興についてから質問してまいりたいと思います。

ただいま、部長から答弁していただきまして、コンフューザーRの設置状況が3割ということで、この状況で大丈夫なのかなあと心配するわけであります。

先般、農家の方と話す機会がありまして、山手にはモモシンクイガ——通称はりとおし。去年も発生したけれども、里のほうには出ていないという農家の方もおりました。農協さんのほうではどういう指導を——市が一緒になってやっているのか。コンフューザーRの設置の指導について聞いているのかお知らせください。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） コンピューターRの設置方法については、農協さんを中心に講習会等を開催しておりまして、市のほうでもそちらのほうに参加させていただいている状況でございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） 私の園地は発生しない、去年も発生していないから大丈夫だという気持ちを持っている人たちも多分いると思うんです。県のほうでも力入れて、農協のほうでも力を入れてやっていると思いますけれども、市のほうでももっともっとPRして、壇上でも申し上げましたけれども、この病害虫が1匹でもいけば台湾への輸出が途絶えるという大きな問題もありますので、ひとつ、もっともっと力を入れてほしいなど、そのように思います。

コンピューターRの購入に当たってですね、近隣市町村で補助金等を交付している市町村があるのかお知らせください。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 近隣市町村の助成状況でございますが、藤崎町、田舎館村、西目屋村の3町村が、県の2分の1の助成にかさ上げをいたしまして、購入費用の4分の1を補助している状況でございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） ありがとうございます。近隣では3町村が補助しているということでありましてけれども——市の補助もそうですけれども、農家の8割がコンピューターRを設置するのが一番の目的でありますので、その辺をもっともっと考えてほしいと思います。

農協さんのほうにも聞いたんですけれども、この補助も6月20日までの予約が対象ということであります。それを過ぎた場合は補助金がなくなるということでもありますので、今年もこれからの気温によるかと思っておりますけれども、来年もまたモモシクイガが発生する可能性もありますので、その辺を踏まえて今後検討してほしいと思います。これについては以上であります。

農道整備についてでありますけれども、補助金とかそういう事業もなかなかないし、改良区のほうで整備した田んぼであり道路であります。それがもう何十年もたつて、用水・排水路も路肩も大分落ちて困っている部分もある。これは多分改良区の仕事かなと思っておりますけれども、それに併せて道路もだんだん潰れていっているのが現状であります。

市内の青山地区のほうも大分住宅が伸びてきて田んぼを埋めてきている状況にあり、その住民の方も農道を通って通勤、通学に使っている状況にあります。本当に農繁期には車が擦れ違ふことができなく、実際、私も少しですけれども田んぼも畑もあるんですけれども、すぐ目

の前が自分の畑なのに——秋なんですけれども、コンバインからトラックに積む。トラックが傾けば駄目だから道路の真ん中で止めているわけです。「私の畑がそこなので、ちょっとよけてくれ」と言ってもよけない。そんなこともありますので、見れば本当に——けんかまではいかないかもしれないけれどもそういう状況も見ますので、補助金であったりいろいろな事業を探してこの問題を解決できればと思います。ぜひ農繁期に——稲刈りの時期に道路を回ってみてほしいと思います。これは提言でございます。

次に、金平成園についてお尋ねいたします。

部長から、高齢者や障害者の方の減免を今検討しているという、すごく温かい答弁を頂きましたのでぜひ進めてほしいなど。来年からできるようになれば大変ありがたいと思います。

ところで、今年度の入園者数を分かっていたらお知らせください。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 今年度でよろしかったでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 令和6年度は4月から入園しております。現在ですね、大人が814名、高校生が25名、中学生以下が5名ということで、計844名の方々にいらっしゃっていただいております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） ありがとうございます。年齢別も教えてもらいましたので、やっぱり大半が大人の方ということでもあります。私も何回も行くわけではないんですけれども、あずましい場所だなあというのが感じられます。

たまたま今年縁があって瑞楽園に行くことができました。そうしたら市外の方も無料ということで、ボランティアのお姉さんが御丁寧に説明してくれてすごいなあと。ちょっと場所は離れているんですけれども——先ほど部長からも答弁ありましたけれども、ここは指定管理——造園屋さんが指定管理を受けているということで、それに伴ってボランティアガイドさんもそこで——その中身はちょっと分からないんですけれども、すごいうまくやっているのかなと思った次第でございました。

来年から高齢者も無料、身障者も無料になれば、市民の方も観光客を連れて入園者数も増えるのかなと思っております。入園された方の滞在時間を増やすために——今お茶会やっていますけれども、そういうのがあれば滞在時間も増えて、市外から来た方にすごく喜ばれるのかなあと考えておりますので、滞在時間を長くするために常時お茶やコーヒーなんかを有料で提供したりすれば、のんびり癒やしの時間を過ごせると思うんですけれども、そのような考えがあ

るかお知らせください。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 先日も行いました市制70周年記念事業の野点会、庭園を觀賞しながらお茶を楽しむことについて、こちらに来られた多くのお客様方から大変好評な意見を頂いてございます。

議員御提言のとおり、その場に来ていただいて長い時間滞在していただくということでは、私どものほうでは図書館から本を借りていただいて、園の中で本を読みながらひとときをくつろいでいただければなと考えております。飲物等に関しましても、コーヒーマーカーを事務局に設置するとか、自販機を設置するとか様々な手法はあるかと思えます。その辺につきましても教育委員会のほうで考えていきたいと思っております。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） 確認ですけれども、図書館に行った方は無料で入園できるんですか。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） その辺もまだ確定したものではございませんけれども、図書館で本を借りていただいて、その本を持って庭園の中で読書していただくとか、そういうこともあり得るのかなというふうに考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） できれば無料にして、お茶を飲みながらゆっくりひとときを過ごせば——そのお茶代はしっかりもらうと。無料は駄目ですので。そうしてもらえればいいのかと思いますので——お金を取るというのは行政では無理なのかなと思っておりますけれども、おいおいこれも指定管理に移行する考えも必要かと思っておりますけれども、その辺の考えはあるのかお尋ねします。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 今現在ですね、金平成園の運営に関しましては、ボランティアガイドの皆様方の御尽力の上で成り立っているものと認識してございます。庭園の中に入っただけであればですね、ボランティアガイドの皆さんが積極的に園の中を案内していただいています。一生懸命説明していただいている姿には、私も本当に感銘を受けているところです。ですので、今後、運営の在り方についてはどのような形が一番理想なのかということ由市及び教育委員会の中で検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） 大変部長の前向きな答弁ありがとうございます。いい名勝でありますので、ぜひ市民をはじめ黒石市に来るお客さんがいい時を過ごせるように今後検討してほしいと思います。

次に、公園の遊具についてでありますけれども、運動公園の滑り台に孫を連れて行った際、春先はよかったが、5月に行ったら滑れないという状況でした。点検して評価が出る。これを空いている時間に、ちょうど利用しないときに点検して更新、修理というものをできないものなのかお知らせください。

◎副議長（三上廣大） 建設部長。

◎建設部長（中田憲人） 閉園の時期に点検ということですね。現在、春先に雪解けしてからやっているんですけれども、確かに例えば11月に閉園してからとか、その期間中に点検するというのも合理的なやり方だと思いますので、今現在の点検の在り方も併せながら検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 14番佐々木隆議員。

◎14番（佐々木隆） ありがとうございます。北国の降雪地区でありますので、点検して冬から春まで利用しない期間が大分長いので、その間にしっかり点検して更新するところは更新するというようなやり方をしていけば、子供たちも——私も孫を連れて4月に行ったら楽しく遊んで、5月に行ったら大きい滑り台が使えないということでありましたので、その辺もランクがA、Bという段階でも、これは何年か後には使えなくなるというようなことをしっかりと把握して、先手先手でやってほしいと思います。

虹の湖の大きい滑り台も今はやられていないわけで、昔はかぐじ広場にもあったものが……。子供たちが遊ぶ場所がなく、わざわざ違うところへ連れて行くっていうのも子供たちに不便をかけるわけですし、親も時間が取られるわけでありますので、せっかくある市の遊具施設でありますので、しっかり点検は点検、それを前もっていつ頃やっていくという——更新もいろいろ補助金やらをいろいろ模索していると思いますけれども、子供たちが市内で遊ばないで青森の運動公園に行くとか弘前に行くとかってなってしまうと、子供たちもかわいそうだし親も大変でありますので、その辺を今後しっかり把握して取り組んでいってほしいと思います。これは答弁要りません。

以上で、私の一般質問を終わります。

◎副議長（三上廣大） 以上で、14番佐々木隆議員の一般質問を終わります。

◎副議長（三上廣大） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時49分 休 憩

午後1時01分 開 議

◎副議長（三上廣大） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、13番中田博文議員の質問を許します。13番中田博文議員。

登 壇

◎13番（中田博文） 令和6年6月、第2回定例会に当たり一般質問をさせていただきます、自民・公明クラブの中田博文でございます。

今年は市制施行70周年という当市にとって特別な年であります。私は72歳ですので2歳のときに黒石市が誕生しております。

先般、市制70周年の記念事業の一つ、お茶会がありました。6月2日は雨を警戒し、会場は金平成園の日本間です。6月9日は野点、外で庭園を眺めながらのお茶会です。お茶会での席で亭主の方が、担当の職員の方々が前日より池に入り掃除や藻を取り除いてくれたり、長椅子等の準備をしていただいたおかげをもちましてお茶会を開催することができ、感謝でありますと喜んでいました。また、高樋市長が白大島紬のアンサンブルの着物でお茶会に出席していたことが印象的でした。大石武学流の庭園でのお茶会、すごくよかったと喜んでいて自分です。また、金平成園の庭園をもっと活用できないかとも思うものであります。もう一回お茶会がありますので、担当は大変でしょうが頑張ってください。

7月にはねぶた祭り、8月には黒石よされ、9月には10市大祭典、10月には市民サービス施設のオープン、12月には市制70周年の式典があります。市長並びに各担当の職員の方々には慌ただしい年ではありますが、市民の方々とうまく巻き込みながら印象に残るような1年にしてほしいと願うものであります。

それでは、通告に従い質問をしていきたいと存じます。

最初の質問は、（仮称）市民サービス施設についてであります。

建物は地味な色、黒です。黒石市の黒に合致するのかなと思いました。建物が新しくなれば鮮明な印象を持ちますが、素朴で派手さがない、図書館もしかりであります。私たちの感想より市民の方々がどのように思うかが大事であります。施設に対しては喜ぶもの、分散で今頃何になるのかと批判するもの、多様であります。

名称（仮称）黒石市役所のまちセンター、この名称を聞いてどのように表現していいかわからないと思いました。身近な名前といえば身近。市民と行政とで命名したわけですので、建物並びにわのまちセンターという名称が、市民からこよなく愛されることを望むものであります。

す。

施設に関しては工藤禎子議員が取り上げております。私から重複するかも知れませんが、窓口業務、部署の配置、対応、接客についてどのようになるのかお尋ねいたします。また、当面は数多くの市民が見学に来ると思います。懇切丁寧な説明なり対応をしていただきたいと存じます。

2番目は、農業行政についてであります。

当市の農業者は高齢化が進み、総農家数は平成2年の3009戸から令和2年には1417戸に、30年間で半減と発表されています。現状の説明では、農地までの道路の劣化や急傾斜地の未舗装等により農地までの移動が危険、水路に長年の土砂が堆積し、人力や少人数での泥上げが困難。このようなことから離農の要因の一つで、十分な人材確保ができない。地域農業を守るためには、農業に携わる全ての人働きやすい環境でなければならない。よって、働きやすい環境となるように必要となる経費の一部を支援するグランファーム応援事業。支援内容は、農地のトイレの整備、スマート農業機械等の導入、防風ネットの張り替え、園地進入路、園地内作業場の舗装化・舗装補修、水路泥上げ等に使用する機械のリース、小規模水路・側溝の製品化、きめ細かな事業だと賞賛するものであります。よって、現在の応募状況はどのようになっているのか。また、この補助事業に対する農業者の反響はあるのかであります。

2つ目は、有機栽培の現状と拡充についてであります。大溝議員も取り上げておりますが、まずお尋ねすることは、この事業の発端、実施はいつからで、どのように推移してきたのかであります。

農業者にすると、収量が制限される、病害虫の被害が多い、生育の遅れ、面積当たりの収穫が減る、すなわち生産額が低いという声があります。あわよくば収量が増え、私たちの口にも入り、数多くの市民も食することが望ましいわけですが、現実的に当市の有機栽培の現状、収量、品目、単価はどのようになっているのかであります。

市長は、地元で有機栽培がもっと展開され、収量が増え市内の学校の給食に使われることを望むという声があり、私たちも期待があるわけですが可能性はあるのかであります。

また、単純な質問ですが、本来の産品と有機栽培の産品との差異についてお尋ねいたします。また、農業者の収入が少なくなるのであれば、それに見合う奨励金を助成するべきと思いますが、どのようになっているのかお尋ねいたします。

この件については、先ほどの大溝議員と重複しておりますので、私に答えられるものがあればお答えしていただきたいと存じます。

3つ目は、害虫対策についてであります。この地域における農作物の害虫についてと被害、対策はどのようになっているのかお尋ねいたします。また、全国30の都道府県でカメムシ注意

報が出ています。青森県の現状はどのようになっているのかお尋ねいたします。

4つ目は、マメコバチ不足と報道されています。どのような状況で、どのような対応、対策がされているのかお尋ねいたします。また、県の指導の下、フェロモントラップを試行錯誤していると聞きますが、そのことについてもお知らせください。

以上で、農業行政を終わります。

大きな3番目は、東公民館の改築についてであります。

この件に関しては、10地区の公民館、地区センターの中で東公民館が一番古くなっています。大半の施設は、空き校舎等を改修し移転がなされ、新たな施設に生まれ変わっています。しかし、東公民館と中部公民館は古いままで改築の予定が示されていません。

数年前、東地区の方から、「公民館も古くて利用しづらい。そろそろ改築のお願いをしてください。」とのお話があったので一般質問で取り上げました。その時点での答弁は、黒石小学校の建設、大黒の解体、市民サービス施設の建設、大きなプロジェクトがめじろ押し。ゆえに今の時点では実施計画に入れることは困難であるとのことでした。

最近、東地区の方から、「市長が地区の懇談会で、公民館の改築と今の場所が手狭なので新しいところに土地を求め、改築を進める旨のお話を言っていました。」とのことあります。そこで、私に改築するのか確かめてほしいということあります。そしてまた、いつ頃になるのかも聞いてほしいという要望です。担当に問い合わせたところ、何ら回答はありません。市長と担当課の言い分なり見解は違います。しかし、改築はどのようになるのかであります。

また、市長は、将来公民館を廃止しコミュニティーセンターに変えていくとお話をしていますが、現実的な議論はなされているのか担当に聞くと、議題、事案には上がっていないということです。さきの児童館がりんごクラブに変わっていくのと同じく、時代とともに改革していかなければならないのであれば、問題を現実的なものに進めていかなければならないのではないのでしょうか。この件に関しては提言とさせていただきます。

最後の質問は、診療報酬の改定についてであります。

この件はたまたまニュースを見ていたら、医療費アップの報道があったのであります。よくこの議場で病院の経営に関して担当課から、診療費の改定により収入が違ってくる。経営が左右されると説明があります。

よって、今回の改定内容はどのようになるのか。そして、患者にとってはどのようになるのか。病院自体に与える影響はよくなるのか、ならないのか、難しくなるのか、丁寧な説明なり答弁をお願いします。

以上をもちまして、壇上からの一般質問を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎副議長（三上廣大） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 中田博文議員にお答えいたします。私からは、農業行政についての、すべての人が働きやすいグランファーム応援事業について答弁させていただきます。

すべての人が働きやすいグランファーム応援事業の申請状況につきましては、現在までに合計34件の申請がありました。内訳といたしましては、農地のトイレ整備が10件、スマート農業機械などの導入が8件、防風ネットの張り替えが8件、園地進入路、園地内作業場の舗装化・舗装補修が7件、水路泥上げ等に用いる機械のリースが1件であり、事業全体の申請総額は約1000万円となっております。

次に、本事業に対する農業者からの反響につきましては、トイレの整備や防風網の張り替え、園地進入路、作業場の舗装化といった既存の事業でカバーできない農地環境の様々な整備事業に活用できる取組として好評を得ております。

特に、補助事業の一つでありますスマート農業機械等の導入は、近隣市町村や青森県の同様の事業と比較して申請者要件を広く設定しているため、中小規模農業者にとっても申請しやすく、利活用しやすい事業であると評価されております。

本事業の目的は、地域の農業を守り、将来へつなげるために経営基盤となる農地の環境を整えることにあります。近隣市町村においても、トイレ、防風網といった一つ一つの種目を対象とする補助金制度はありますが、本事業のように多種多様な種目を包括的に支援する事業につきましては例がなく、黒石らしい特色のある独自の事業であると自負いたしております。

その他につきましては、担当部長等より答弁をさせます。

降壇

◎副議長（三上廣大） 教育長。

◎教育長（山内孝行） 私からは、東公民館の改築についてお答えいたします。

東公民館は昭和49年度に建築され、その後、平成24年度に耐震補強工事を行い現在に至り、建設からは約50年経過しております。

老朽化した各公民館につきましては、閉校した校舎を改修するなどして順次移しており、令和6年度の旧浅瀬石小学校の改修工事が終了し移転が完了すると、東公民館が最も古い建物となるため、次は東公民館の改築や建て替えに着手したいと考えております。

これらを鑑み教育委員会といたしましては、地域の方々の御意見を伺うとともに関係部署と協議してまいります。

また、コミュニティーセンター化につきましては、今月24日から開催されます市長と地区協

議会との意見交換会においてテーマの一つとなっておりますので、まずはその場で各地区の皆様と意見交換されていくものと認識しております。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 私からは、（仮称）市民サービス施設についての、部署の配置についてお答えさせていただきます。

部署の配置については、1階に市民環境課、会計課、子育てに特化した課が配置されます。

2階は健康福祉部の各課及び税務課となっております。

対応、接客につきましては、まずコンシェルジュが各課の窓口へ来庁者を案内するなど、来庁者の要件に応じた対応を行います。また、来庁者によっては職員との相談でプライベートな打合せが必要な方もいらっしゃると思いますので、相談室も設けております。

こういった対応で、多くの市民が利用しやすい施設となるように努めてまいります。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 私からは、農業行政についての、有機栽培の現状と拡充、害虫対策、マメコバチ不足についてお答えいたします。

まず、有機栽培の現状と拡充についてでございますが、市内の有機栽培に取り組んでいる作目は水稲とミニトマトが中心というお答えを大溝議員のときにいたしました。

収量と価格差、それと農業者の支援についてお答えいたします。

ムツニシキにつきましては、収量は慣行栽培の7俵と比較いたしまして収量は4俵程度になります。取引価格は、令和5年産の慣行栽培ムツニシキが1俵1万5600円に対しまして、有機栽培のムツニシキは1俵当たり2万7300円で取引されてございます。

また、ミニトマトの状況でございますが、有機農産物を市場に流通させるには国の認証取得が必要になります。ミニトマトにつきましては今年認証を取得する予定となっており、現在の取引価格は慣行栽培のミニトマトと同じ取扱いとなります。昨年、このミニトマトにつきましては、青森市内の大手スーパーで販売いたしました。そのときは有機の認証がありませんでしたので、100グラム200円程度で販売してございます。これを有機の認証を取得することによりまして、価格が200円以上、または倍になると思われれます。収量につきましては慣行栽培と同等の収穫量となっております。

次に、農業者への支援であります。令和4年度から国のみどりの食料システム推進交付金を活用いたしまして、有機栽培の認証を取得するための講習会の開催や先進地での視察研修などを行ってございます。

国の有機栽培の認証を取得するためには、まず、申請前に決まった講習会を受ける必要がございます。まさに今日、そして昨日の2日間にかけて、産業会館の大会議室で関係機関の講師を招いて認証取得の講習会を実施している最中でございます。

次に、市独自の支援対策といたしましては、有機肥料の購入の一部を助成するほか、ムツニンシキにつきましては慣行栽培の収量に比べて減収となった場合に、減収分の2分の1を補助する事業を実施しているところであります。

次に、害虫対策についてお答えいたします。

全国30都道府県で果樹カメムシ類の注意報が発表されておりますが、当市を含め、県内では今のところ大きな問題にはなっていない状況です。一方、県では、台湾向けりんご輸出における検疫害虫であるモモシクイガの発生や増加が問題とされており、対策が急務となっております。

モモシクイガは、りんごや桃、梨などの果実に幼虫が侵入して果実を食害するため、被害を受けると生食はもちろん、加工品としても適さなくなります。輸出検査において被害果が一つでも発見されますと、りんごの輸出が全面的に停止してしまう実害が大きい害虫です。

被害をゼロにする対策が必要となりますが、薬剤だけの防除では、散布間隔が短くなり回数が増加につながります。モモシクイガの薬剤に対する抵抗性の発達にも影響するため、害虫の交尾阻止を目的といたしました交信攪乱剤コンフューザーRの設置と薬剤散布による二重防除が有効とされております。

次に、マメコバチ不足についてお答えいたします。

津軽地方では古くからりんごの受粉用に飼育されてきたマメコバチですが、農家や関係機関からは、今年の春先活動しているマメコバチの数が少ないのではないかという声が聞こえてきております。

令和6年6月4日に開催されました第1回中南地域果樹会議では、マメコバチの減少について説明があり、要因としては昨年の夏の猛暑や冬場の異常高温などが挙げられましたが、正確な原因の特定は現段階では困難とされております。

また、県では津軽地方の21園地におきまして、りんご農家がマメコバチの巣箱として使用しているアシガヤを割って調査した結果、5割以上の巣箱が天敵であるコナダニで埋め尽くされている状態であったことから、管理方法も一つの要因ではないかと考えられます。

今後の対策といたしましては、受粉活動を終えた7月上旬頃には巣箱を速やかに風通しのよい涼しい場所に保管し、冬場にはアシガヤから正常な繭を取り出して洗浄するなど、基本的な管理を徹底することが重要であると捉えております。

一度減ってしまったマメコバチの数を元に戻すことは容易ではないため、次年産以降は人工

授粉による補助受粉を行い、確実な結実確保に努めていただくよう関係機関と連携して指導してまいりたいと思っております。

次に、フェロモントラップですけれども、これは交信攪乱剤コンフューザーRのことだと思います。先ほど佐々木議員にもお伝えしたとおり、1200ヘクタールの栽培面積に対して370ヘクタールの設置状況となっております。これが多いのか少ないのかちょっと分かりませんが、このフェロモントラップにつきましては、地域ぐるみで取り組む必要があるため、このような数字になっているものと理解しております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（工藤春行） 私からは、診療報酬の改定についての改定内容と、患者や病院経営に与える影響についてお答えいたします。

まずは、改定内容についてお答えします。

診療報酬は一つ一つの医療行為ごとに厚生労働大臣が定めた点数を足し合わせて算出しております。その点数や算定基準の改定が診療報酬改定であり、通常、この改定は2年に一度行われることになっております。

改定内容については、前回の令和4年度の改定では新型コロナ対策が重点課題であったのに対し、令和6年度の改定の全体像としては、雇用情勢を踏まえた人材確保や働き方改革の推進、団塊の世代が後期高齢者となる、いわゆる2025年問題への対策などが重点課題となっております。これは高齢者人口がピークとなる2040年に向けて、治す医療を提供する医療機関、治し支える医療を提供する医療機関の役割分担を明確にしていく準備に入ったものとなっております。

改定率については全体で0.88%のプラス改定、つまり診療報酬額は増加する改定となっておりますが、内容的には人件費に充当される処遇改善の部分が大きく、病院収入は増加しても利益が増加するわけではないという仕組みのため、病院経営にとっては厳しいものとなっております。

次に、患者や病院経営に与える影響についてお答えいたします。令和6年度の診療報酬改定によって、黒石病院が経営上大きく影響を受けると考えられるものが3つあります。

1点目は、急性期病棟に係る入院基本料の基準変更で、7対1看護基準を算定する急性期病棟において、平均在院日数が18日以内から16日以内に2日間短縮され、また、特に高齢者や内科系疾患の患者さんへの看護必要度の評価が低くなったため、それらの患者さんが多く入院する黒石病院にとっては7対1看護基準の維持が困難となる厳しい変更内容となっております。経過措置により、令和6年9月30日までは7対1看護基準を維持できる見込みですが、その後は10対1看護基準への届出変更が必要になるものと見込んでおります。

2点目は、地域包括ケア病棟に係る入院基本料の減算要件の変更で、自宅や施設から地域包括ケア病棟に直接入院する患者に係る要件が厳しくなったことなどにより、減収が避けられない見通しとなっております。

3点目は、主に高齢者の軽症及び中等症の急性期患者への対応に主眼を置いた地域包括医療病棟の入院料が新設されたことで、黒石病院では現在、その病棟機能を調査研究するワーキンググループを立ち上げ、その導入や既存病棟からの転換の可能性、収益見込みなどについて協議をしているところです。

一方、患者さんへの影響としては、入院中の食事に係る自己負担額が物価高騰により1食につき30円引き上げられたほか、外来受診の際の初診料が30円、再診料が20円引き上げられました。

いずれにしましても、今回の改定によって黒石病院が受ける影響は例年になく大きいものを見ておりますが、新しい基準などに見合った体制を早く整えて収益の確保を図り、黒石市国民健康保険黒石病院経営強化プランに沿った経営改善に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 答弁漏れは、ありませんか。

（なし）

◎副議長（三上廣大） 再質問を許します。13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） まず、1番の（仮称）市民サービス施設に関してですけれども、外壁が黒ということで何となくイメージが暗いような感じを受けると思うのであります。特に、子供たちはこの黒に対して違和感を覚えないかなと思うのですが、所見があればお願いいたします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 子供たちが違和感を覚えるかどうかは私もちょっと判断できませんが、中田議員もこの黒というものに違和感を覚えているということでとても残念でございます。

昨日、工藤禎子議員にもお答えしたとおりで、黒を基調とした凜としたたずまい、それと軒天との木目との調和っていうこともございますので、暗いながらも明るい点もあるというところを御覧になっていただきたいと思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 感じ方っていうのはそれぞれ様々ですので、総務部長が感じたものと私が感じたものっていうのは違って、これはどうしようもできないということで、出来たものに対してどうのこうのとは言えません。そういうことで、市民の方が数多く利用していただくという空気づくり、雰囲気づくりっていうものを大いにしていかなければいけないと思っております。

どもいかがでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 市民サービス施設は、市役所機能と交流機能という2つの機能を持ち合わせておりますので、数多くの方、お年寄りから学生、中学生、高校生のたくさんの世代の方々が集まって、そこでの交流なり——これは図書館にもありますけれども、そこでちょっと勉強していくとか、そういうこともできますので、たくさんの方においでいただきたいというふうに思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。結構、今のこの市役所を見ている、市民の方が役所に用事があるのと一緒に、結構複数で来て、待ち合わせ的な感じで用事を足しながらものを取ったりということでもありますので、新しい市民サービス施設においてもですね、先ほど相談室もあるということでもありますけれども、ふんだんに余裕のあるスペース、椅子、机というものを多めに置いていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 先ほど申した交流機能のスペースっていうのも十分取っております。そこには椅子、テーブルも置くことになっておりますので、そういうのを御利用いただきたいというふうに思います。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） よろしく願いいたします。10月15日がオープンということでもあります。市民の方々はですね、関心を持っている人は行きたい、見に行きたいと。どれぐらいの人が来るのかちょっと想像が付きませんが、オープンセレモニーとかテープカットとかを考えているのかどうかお願いします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） 10月15日のオープンセレモニーは当然考えております。そちらの次第というか、具体的などころまではまだ出来ておりませんが、テープカット等はされるものと思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） よろしく願いいたします。当日、セレモニーがあるときにですね、学校が出来たり、橋が出来たり道路が出来ると、その場所に市民の方とかが集まるときに、記念ではありませんけれども——市民サービス施設オープンという形のものでいいし、市制70周年

というものでもいいので、ポケットティッシュとか——学校が出来たり、何かが出来たりすると紅白のまんじゅうとか、紅白のお餅とかを支給ってということもあるので、先着100名とか数少なくて結構ですので、そういうものも考えていただいて、市民をちょっとでも多く来てもらうような形を考えて、巻き込むような形をしていただきたいと思いますけれども、何か見解があればお願いします。

◎副議長（三上廣大） 総務部長。

◎総務部長（鳴海淳造） たくさん御提案していただきました。（仮称）市民サービス施設は、市民の多くの方が注目しているように感じております。ですので、物で釣るまでもなく、10月15日その日じゃなくてもですね、それ以降でもたくさんの市民の方が御来場されるものと思っております。

あと、紅白のお餅、まんじゅうの贈呈というのもございましたけれども、先着というふうにすると、大分並んだりして近隣の住民等にも御迷惑をおかけするのかなと感じられたので、率直なところ難しいかなと思いました。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 数多くの市民が関心を持ってくれるような工夫をしていただきたいと思います。1番は終わります。

次に、2番の有機栽培の現状と拡充ということで、先ほど大溝議員にもるる多岐にわたって答弁、説明ありました。私個人が期待するのは、早くに小・中学校にお米——1年を通して有機栽培のものを提供できるという形が将来的に可能かどうかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 毎日の給食に有機米をとということだとは思いますが、担当課といたしましてもそのように実施していきたいんですが、現段階ではいつとか、いろいろ制限もございますので詳しいお話はできませんが、有機の黒石の計画の中では、令和9年度までには可能な限り近づけたいというふうになってございます。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 先ほどの大溝議員への答弁の中で、1名だったのが6名に増えたということで、この後ですね、単価がいいのであればもっともっと増やしていきたい。その反応、空気のものはどういうふうに感じているのかお願いします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） もちろん国のほうも有機栽培につきましては

推進してございますので、当市といたしましても実施する農業者を増やしていく動きを積極的に進めてございます。

何分農業者の方々もいろいろ自分たちの経営もございますので、そういうものも見ながら、協力できる方、取り組んでいただける方を取り込んで、積極的に面積等の拡大をしていきたいと思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ある意味では拡充されていっているというのは理解できます。それと、グランファーム応援事業の答弁で、先ほど市長から、34件の1000万円ということで、残額がまだありますけれども、可能性とか反響的なものがあるのかどうかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 可能性ということは次年度以降、次年度以降の事業の実施だとは思いますが、現段階では明確なお答えはできませんが、今年度の事業の実施や農業者の反響、そして何より次の世代に地域農業、農地を継承するために必要であると判断した場合は、支援内容等を見直しながら検討する必要があると思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 物事を理解すると、作業は大変だけれども理想的な事業だと思いますので、徹底して補助的なものをもっともっと考える必要があると思っておりますけれどもいかがでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 黒石の地域農業を次世代につなげていくためには、新規就農者、若手農業者、女性農業者など様々な農業者が活用できる事業を検討していく必要があると思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 先ほどの大溝議員の答弁の中で、有機栽培者は20名を目標にやっていきたいという答弁があったのでありますけれども、面積的なものはどういうふうな目標というものを——先ほど答えているかどうか分かりませんが、再度お願いいたします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 面積的な部分でございますが、現段階では有機栽培の取組面積が4.6ヘクタールです。それを令和9年度までには40ヘクタールまでに拡大していく計画となっております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） その兆しというものはあるんでしょうか。何か感じているものがあればお願いします。

◎副議長（三上廣大） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（佐藤久貴） 計画を40ヘクタールと言いましたが、ムツニシキの取組だけで今年度33ヘクタールになってございます。また、その他の作物の有機栽培の面積を加算しますと40ヘクタールの目標面積をクリアすると思っております。

以上です。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 今聞いたことを身近な周りの人間にもPRしながら、有機栽培——化学肥料とかを使っていない作物、米を買って、健康のためにそういうものを食べましょうということを話題にしたいと思います。頑張ってくださいと思います。

3番目の東公民館の改築についてであります。

浅瀬石小学校が終わると東公民館ということで、7年度当たりからこのものを着手的な方向に担当課は向かうのかどうかということをお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 現在、担当課において改築に関わる手順など、その他事業の具現化について検証を行っておりますので、令和7年度には動き出せるものと考えてございます。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 可能性として、実際工事の着手というのはどの辺りに考えているかどうかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 工事の時期につきましては、いずれについても市の全体計画の中で決定されると思っておりますので、この場面で何年度に着手するという明言はできないものと思っております。ただ、先ほど答弁したとおり、次は東公民館であるということは、こちらで考えているという回答をしておりますので、そういうことで御理解いただきたいと思っております。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） そうすれば、可能性、確率っていうのは高いというふうに東地区の方にお話をよろしいでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（樋口秀仁） 可能性が高いということでよろしくお願ひいたします。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） ありがとうございます。

最後の質問です。黒石病院の診療報酬の改定ということで、局長からの答弁を聞いていると、病院にとっては決していい改定内容ではないということでもあります。

最近、黒石病院に行くとき、農繁期のせいもあるのか患者数が少ない。昨日の議会のやり取りで、黒石の人口が3万人を割ったと。人が少なくなると病院の患者さんも少なくなる傾向にあるのではないかと心配をするわけなんですけれども、患者さんの動向というものはどうなっているのかお尋ねいたします。

◎副議長（三上廣大） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（工藤春行） 外来の患者数につきましては、直近では昨年度とほぼ変わらないような状況でございます。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 私がたまたま通院で行くときが結構患者数が少ないという感じを受けます。案外混んでいなくて待ち時間も少ないということ単純に考えると、患者数が少ないと私は感じるんですけれども、もう一度お願いします。

◎副議長（三上廣大） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（工藤春行） 患者数についてですけれども、診療科によっても異なってきます。1週間のうちに月曜日にやっている診療科、やっていない診療科もありまして、それによってその日の受診者数も変わってきますので、たまたま少なかったかもしれません。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 最近、入院患者の方から黒石病院の給食がまずいから家に帰りたいというのが何件かあるんです。病院側は健康のために減塩的なもの、カロリーの低いものと——市民はまだまだそういうところを感じていません。もっとPRを、患者を整えるためにも理解するような説明を入院患者の方にしていかなければいけないと単純に感じたんですけれどもいかがでしょうか。

◎副議長（三上廣大） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（工藤春行） 患者さんが給食に関して味が薄いとかっていうのは個人的な感じ方もありますでしょうけれども、管理栄養士が全て献立を考えて提供しているものでござ

います。その患者に応じたメニューをきちんと調理しているわけですので、患者さんがそれを食べて元気になるというのであれば、それでちょっと我慢してもらうしかないのかなというところもございます。

病院側としては最低限の材料費、いろいろなものを積算として基礎的なものをお願いしてはありますけれども、そういうところで患者さん個別の部分に関しては、意見をなかなか言えないかなというところではあります。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 分かりました。病院に関して一言言いたいのは、人口減少ということになると、今現在の黒石病院の規模的なものをもっと縮小していかなければいけない時代が間もなく来るんじゃないかと懸念をするわけですが、所見何かあればお願いいたします。

◎副議長（三上廣大） 黒石病院事務局長。

◎黒石病院事務局長（工藤春行） 何年後かには高齢者がかなり増えて、黒石の人口も減少して、そのために病院に来る患者も減るといふようなことは考えられることだと思っております。それも今回の病院経営強化プランのほうにもそういう背景を考えた上で載せてございます。それに従って、これからの病院経営を考えていくべきだと考えております。

以上でございます。

◎副議長（三上廣大） 13番中田博文議員。

◎13番（中田博文） 頑張ってくださいと思います。

以上で終わります。

◎副議長（三上廣大） 以上で、13番中田博文議員の一般質問を終わります。

◎副議長（三上廣大） これで、通告のありました一般質問は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

午後1時50分 散 会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

令和6年6月19日

黒石市議会 議長 工藤 和行

黒石市議会 副議長 三上 廣大

黒石市議会議員 後藤隆夫

黒石市議会議員 村上隆昭